

あお ぞう し
青 草 子

正直がいちばん!
Honesty is the best policy.
松坂まさお



島原市議会 議員活動報告書
(政策研究討議資料) 2023/4

第 19 号

はじめに：先の県議選（2023/4）では大変お世話になりました。本田みえの決断で、島原の良識を問いかけることが出来ました。松坂まさおも積極的に関わりました。

時間調整が難しく『青草子 18 号』の全戸配布はできませんでした。この 19 号は、18 号の内容も併せて編集しましたので、一部重複になります。ご了承ください。

← **あきらめない**のほりを持ち本田みえを自主応援。

【巻頭言】自分で考えること

技術文明が進み、知識も物質も格段に豊かになりました。その一方で自然環境が失われゆく中で人類は進歩しているのでしょうか？現代に生きる私たちは、昔の人たちより幸せを感じているのでしょうか。

議員になって 20 年近くなりますが、政治の世界はむしろ悪化しているように感じます。言論の自由が制限され、窮屈になっています。（集团的自衛権の解釈変更、国会召集要求の拒否、行政に追随する司法、など）政治モラルの低下はそのまま社会モラルの破壊につながりつつあります。

学校で体罰が禁じられて 77 年たちますが、いまだに体罰はなくなりません。男女平等になって 77 年たちますが、いまだに「わきまえない男」が幅を利かせています。政治

の世界の常識は一般市民の常識に追いついていません。「普通に考えりゃわかるだろう！」という事ばかり。自分で考えない者が多いからだと感じています。

気が遠くなりそうですが、それでも数百年単位でとらえれば、人類は進歩しています。現在の差別や困難に立ち向かう前提に（不完全ながらも今の日本には）平等があり、少なくとも自分で考える自由があります。精神は自由です。

自分で考えることをせず、世間の風潮やボスの言いなりという不幸な人もいますが、逆境の中、精神の自由を（自分で考える自由）を守り続けている人も多くいます。

あたりまえの事ですが、今一度「自分で考えること」を、問いかけようと思います。

長崎県議選レポート

無投票・自民独占でいいのか？！

立ち上がった本田みえ候補を応援！

年が明けて（2023年）も、このままでは、県議選島原選挙区も無投票（自民に二議席白紙委任か？）という重苦しい状況。誰も立たないのであれば、無謀でも松坂自身が選択肢を示すしかないのか？鬱々としていた。

そんな中、わが相棒・本田みえが県議立候補を決断した。「このままではいけない！」と思っていた多くの市民に非自民の選択肢を提供し、希望をつないでくれた。

影響は大きく、無投票かと諦めかけていた南島原市・大村市が相次いで反応し、無投票が解消された。このことだけでも、既に本田みえの功績は大きい。しかも女性。何かと諦めさせられる立場だった女性を代弁し、『わたしは あきらめない！』と。

急ごしらえの選対だったが、オール市民・オール野党が結集した。

出遅れの準備不足が、そのまま、結果となったが、皆さんはどう評価するだろうか。

2023/4/9 投開票（投票率：44.88%↓）

当 山本由夫 自民現 6,273

当 大場博文 自民現 5,615

次 本田みえ 無所属新 4,040

投票率は下がる一方の中、県全体の平均をも下回ることになり、関心の低さに絶望しそうになるが、諦めるわけにはいかない。何故にかくも政治離れが進むのか？

選挙戦を通じて気づかされたことなど、経過を報告しておきたいと思います。



●二つのチャンスをなぜ活用しないのか

一年前、県議選を共に戦った大村の議員に指摘された。市を良くしたい想いに県議も市議もない。統一地方選選挙区は、ルールで二回は戦えない。その点島原は、もし県議選に敗れても、再度市議選で戦えばいいじゃないか。県議選を不戦敗など許されない。野党は何をしている！と。

●伏線となった 2022 県知事選

県知事選については後述（P10～）するが、本田みえはその選対長として指揮をとった。（松坂もその責任者に名を連ねた。）

そこで県政の課題は見えていた。何よりも、その時築いた人脈が、この度の県議選でオール野党（立憲から共産党まで）の応援を取り付けることになったのだった。

●（千葉県）いすみ市への視察 2023/2/6

オーガニック給食先進地いすみ市への視察研修がつないだ縁。



あとにつながるそうそうたるメンバー

(以下、三つの気になったこと)

■選挙になると2千万円が無駄になる。

悲しいデマである。本田みえが立候補したことで、選挙になって、余計なカネがかかるというもの。

まるで、無投票ならお金がかからないような言い回しだ。確かに無投票になれば、選挙は初日の夕方5時で終了し、投票日の人件費等は発生せず、いくらか執行残が出る。しかし、たとえ無投票になっても、ポスター掲示板・ポスター等、大半の予算は消化される。当初予算1900万円をあえて2千万円の大台に乗せて……

総理による大義無き衆院解散総選挙のときこそ、無駄遣い選挙の非難もあるだろうが、そもそも有権者が選挙を無駄と考える事こそ問題だ。

■落選後、市議選でリベンジは卑劣。

そもそも、まだ結果も出ないうちに、「落ちても、市議選に再挑戦はするな」とは、なんと失敬な言葉であろうか。

県議選に出るのなら、市議選には出ない覚悟で！と、まことしやかに「選挙に出るなら一つに絞れ」と。

実はこのデマ情報源は、市議選立候補を予定している陣営からのものだった。要は市議選の候補者を一人でも減らして、あわよくば無投票にしたいという、実に下らない保身根性。

実はこの「二股かけるのは良くない」思想は、結構広く浸透していて、改めて政治屋議員の巧みな誘導話術にゾッとする。

本田みえが、県議選に負けて、リベンジすれば、(同情票もあって)上位に食い込み、その分あおりを食うのは、ほかの候補者たち。「県議選に落ちても、市議選には立候補しないと約束してくれなければ、県

議選は応援できない。」と条件を付けてくる陣営もあったのである。

実に悲しい考え方だ。

勝てる選挙なら応援するが、負けるかもしれない選挙を応援したら、自分らの市議選に影響する、と及び腰な政治屋議員に政治理念や哲学はあるのだろうか。

そもそも無投票は良くないと立ち上がった本田みえが、市議選無投票に協力するなどありえないだろう。

勝つ気で闘った県議選、膨大なエネルギーをつぎ込んで、へとへとだろうが、必ず本田みえは復活してくるだろう。

■まだ残る女性不要論

森元総理に代表される、男尊女卑。女は引っ込んでろ、政治の世界にしゃしゃり出るな。の考え方は、いまだに猛威を振るっているようだ。

世の中だいたい進んできたと思っていたが、(共産党さんには悪いが)「自民党一強体制はよろしくないが、共産党さんではね」(南島原市)と同じように「自民一強はよろしくないが、女に政治は務まらないだろう」として、棄権したというのだ。そればかりが投票率低下の原因とは思いたくないが。(この件は、p5でも触れる。)

●次につなげよう！

今回、県議選には敗れたものの、今も続いている『憲法を守る島原平和集会』が今回、幅広い野党共闘を実現。政治を身近に据えた市民運動が期待される。

もともと素地があった、島原半島の有機農業(オーガニック給食)が、今回本田みえの公約でクローズアップ。山田勝彦地元衆議院議員の参画で更に可能性が見えるようになった。選挙結果に関係なく、この運動は続きます。



ウソつき政治 暴走政治に マヒして しまった市民

2023/3月議会 険しい表情で、議会の姿勢を糾弾する松坂

松坂まさおHPのリンク集、上から3番目に「島原市議会中継（録画）」をリンクしている。2023/3/23の8時間24分あたりに、松坂が登場する。久々に怒り心頭の討論だ。

任期最後の2023年3月議会もまたひどいものだった。

市長は不正会計（p15）の責任を取って、自らに前例のない重いペナルティを課した（2カ月間給料を半額にするというもの）。その説明のための本会議場から離れたテレビ放映の無い全員協議会。本来公開が原則の会議を、自民長老の鶴の一声に右へならいの自民多数派は、マスコミの傍聴を排除した。その後、強引に休憩に持ち込むと、市長を議長室（という密室）に連れ込み、我ら野党は蚊帳の外。

数時間すると、市長は、初めの提案を撤回し、給与半額を1年間とする屈辱的な内容に書き換えて、再提案をしてきた。

本来、不正会計を見抜けなかった責任は、むしろ議会にあるのに、そのすべての責任を市長になすりつけ、「俺たちの言うことを聞かなければ、全ての議案も予算も通さないぞ」と、脅迫したことになる。

まもなく市議会は改選だが、定員割れかもしれない現状では、自民絶対多数は揺るがない。まさに数の力のいじめ暴走だ。松坂は厳しく議会を断罪した。

熟議どころか、議論も説明もなく、多数が無言でやりたい放題の状態。

このことは、安倍政権の流れをくむ現岸田政権も同じだ。モリカケ桜、集団的自衛権解釈変更、防衛増税、あまりにウソが氾濫し暴走に次ぐ暴走、どこから糾弾していいのか……。暴動や一揆がおきても不思議ではない状況なのに、市民は、麻痺してしまい、慣れっこになってしまったようだ。

いったいいつからか？2009年、政権交代があった。「コンクリートから人へ」。無駄な公共事業は廃止すると、八ッ場ダム（群馬県）と諫早干拓（長崎県）。ところが、八ッ場ダムもイサカンも止まらず、利権窓口が自民党から民主党に移るだけだった。長崎県が最悪の政治風土と言われるゆえんだ。

これを境に、国民は政治に期待することをやめた。

政治への信頼は取り戻せるのだろうか。

女性の登用について

島原市教育委員会人事と長崎県副知事人事

実は無駄な公共事業の見直し以上に大切な問題点をはらんでいるのではないかと。

教育委員会のメンバーについては、市長の提案を議会が承認する形だ。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、その構成比を性別・年齢・職種等が偏らないようにと規定している。

島原市では各種委員会等の女性登用比率目標を40%としている。教育委員は（教育長を含め）5人、2名は女性から登用してはどうかと尋ねた。（3月議会）

古川市長は、保護者枠の一人が女性だから問題ないと、かみ合わない答弁を返してきた。女性は一人いれば充分と思っているのだろうか。

さて長崎県に目を転じる。

ところが、（副知事は2人ということで、）大石知事には2回チャンスがあったのに、既にその2回、いずれも男性を提案し、先ごろ、一身上の都合で一人引退し、3回目のチャンスが訪れたのに、又も男性を提案してきたのである。

教育委員同様、事実上議会多数派が人事権は握っているとはいえ、それこそ議長に相談して女性枠から提案できなかったのか。議会が承認するかどうかは別として、提案だけは出来るはずである。

ウソツキ大石知事は、このことで完全に信用を無くしてしまった。というより、議員からも職員からも全くなめられてしまった。選挙の公約は守らなくていい！と開き直ったわけで、わざわざ、全ての女性を敵に回すようなことをやってのけたのだ。

かつて中村法道知事は、女性副知事登用を勧められた時、何といったか。「課題山積の県政で女性を登用する余裕はない。」と。女性の登用は飾りでしかないという事か。（女性に政治は無理だ！と。）

長崎県議会は、大石知事に公約を守らせようともせず一緒になって「女性不要論」を長崎県の方針として、宣言したわけで、公約を（約束を）守らないことを、何とも思わない。長崎県の政治のトップに君臨するものが、平気でウソをつき、誰もとがめないのである。

ここまで「政治」を、おとしめた責任はいったい誰にあるのか。自身の問題としたい。

選挙公報 長崎県選挙管理委員会
2022/2
推薦 自民党 長崎県連 日本維新の会
一緒に進めるための14の主要政策
財政改革 にぎわいのある長崎県を目指す
場産業の振興 防災・減災と国土強靱化への対策
通ネットワークの整備 世界に発信する長崎の取り組み
島振興 知事退職金の辞退
長崎県版デジタル庁の実現 ▶政策の詳細はWEB・SNSで
コロナとたたかう医療専門家
女性副知事・民間人材の登用
知事自らが動き判断する県政
知事退職金(約3,144万円)辞退
大石けんご 39歳
自民党長崎県連・日本維新の会推薦
f Instagram YouTube 大石けんご 検索

大石新知事は、「女性副知事」を登用すると公約して当選した。これほど分かり易い公約も、珍しいのではないかと。



核兵器禁止条約 署名・批准へ

2017/7/7 ヒロシマ・ナガサキの悲願であった「核兵器禁止条約」が採択され、署名批准国が50か国に達し、2021/1/22「国際法」として発効しました。

残念ながら、その50箇国に日本は含まれていません。

広島市・長崎市はじめ全国の自治体議会から、国に対して「核兵器禁止条約」に署名して批准せよという意見書が寄せられました。

島原市議会はどうか？ 2019年9月島原市議会に、国に核兵器禁止条約署名批准を求める意見書提出を求める請願が出され、松坂は紹介議員として訴えましたが、採択に至りませんでした。お隣、南島原市にも同内容の請願が提出され、全会一致で採択されたのと対照的でした。(請願提出者は「ICANサポート・ナガサキ」:代表宮田隆氏)

委員会審議段階で賛意を示していた自民党議員が、本会議議決では全員否決に回るなど、党議拘束に縛られる無節操が浮き彫りになりました。

その後、ローマ教皇が来日。広島・長崎からのメッセージがあり、日本全国に「核兵器禁止」の機運がさらに高まり、再度島原市議会に「請願」が提出されましたが、再び否決されました(2019年12月)。

そして2020年末、核兵器禁止条約発効直前、三たび意見書決議の提案をしましたが……

議第1号議案 核兵器禁止条約の実効性を高めるための主導的役割を果たすことを 求める意見書について							
総数 17 人		賛成 4 人			反対 13 人		
4 楠 晋典	3 本田 みえ	採決終了			2 松坂 昌應	1 草野 勝義	
12 永尾 邦忠	11 種村 繁徳	10 松井 大助	9 馬渡 光春	8 上田 義定	7 本多 松弘	6 林田 勉	5 森園 浩太郎
(議長) 生田 忠照		18 本多 秀樹	17 永田 光臣	16 北浦 守金	15 馬場 勝郎	14 本田 順也	13 濱崎 清志

※2020年12月議会採決結果 2021/1/21

核兵器廃絶に 背を向ける 議員は誰だ！

電子採決結果を見ながら、すこし解説をします。

「まだ1年しかたっていないのに、同じ相手に同じ内容を提案してもまた否決されるのが落ちでしょ。」と言われそうですが、松坂は（私たちは）三たび挑戦しました。

アメリカべったりの軍拡を進める安倍政権が（モリカケ桜などもあって）又も政権を放り出し菅義偉政権になっていました。

核保有国がなかなか動かない中で、初めは難しいと思われていた50か国批准が達成され（2020/10/24）「国際法」（世界標準）になりました。広島市議会は、畳みかけるように（国に署名批准を求める）再決議を即決。長崎市議会もこれに続きました。

被爆県長崎の自治体で「核兵器禁止」を言えないでどうする？！一般県民の世論は「核兵器廃絶」が大多数。多様性の社会、「核兵器必要」という意見もあるだろうが、政治家の常識はもはや常識ではない。

平和を党是とする公明党。いくら連立政権を組んでいるとはいえ、長崎には長崎の事情がある。

全会一致で「核兵器禁止条約署名批准」を決議している雲仙市・南島原市に挟まれた島原市の永尾議員（公明党）にどれほど



の働きかけがあったかは分からないが、はじめ永尾議員から三度目の意見書決議の話が持ち上がったのでした。

そんな折、恥ずかしいのは長崎県議会。同じ流れの中だったのに、なんと賛成少数で意見書案を否決（2020/12/18）。

長崎県議会の自民系とつながる者の多い島原市議会多数派にあつて、県議会と反対の決議が出来るか？結局永尾議員からの決議案は取り下げられたのでした。

で、その文案を引き継いで、三たびの提案を試みたのでした。

島原市議会は、新庁舎の新議場に引っ越しを機に、起立採決ではなく、電子採決に移行しています。

起立採決だと、傍聴席（テレビ）からは、一瞬の出来事で、誰が賛成して誰が反対したか、分かりにくい。

その点、電子採決なら一目瞭然。賛成者は白、反対者は青、棄権はグレーのまま。

（画像では議長をカッコ書き加工しましたが、）実際は議長は裁決に加わらないので表記されません。敬称略

賛成：草野・松坂・本田み・楠

棄権：永尾 **※賛成少数にて否決**

賛否を明らかに しない島原市議会

前章では、核兵器禁止条約を巡る、島原市議会の攻防を報告しましたが、「市議会だより」にはどのように載っているでしょう。



■島原市議会だより（2021年3月）

第1号	建設工事請負契約の一部変更について	原案可決
第2号	令和2年度島原市一般会計補正予算（第12号）	原案可決
議第1号	核兵器禁止条約の実効性を高めるための主導的役割を果たすことを求める意見書について	原案否決

そこには、議案名だけで、「可決か否決か」という結論だけしか記載されていません。全会一致だったのか、賛否が割れたのか、その途中経過は全く記されていません。

次のページの、西海市の議会だよりと比べてみてください。

全国の議会の動向は、議案の賛否が分かれた場合には、議員別の賛否一覧を掲載するのが普通になっています。

電子採決になって、作業手順も便利になったので、この機会に賛否一覧掲載になるものと、当然のごとくに思っていたのですが……

残念ながら、島原市議会は、「個々の議員の賛否まで、議会だよりに載せる必要はない。」という結論になりました。この情報公開時代に「何なんだ！」とあきれ果てております。

もとより、全員協議会での申し合わせ的な決定なので、この決定そのものも議会だよりに載らないわけですが……。「これまで通り、可決・否決だけ載せばいい！」と、多数で押し切られました。

議会だより賛否表示（○賛成●反対）202009

会派名	選挙時の政党	氏名	賛否
バラの会	無所属	松坂 昌應	○
	無所属	本田 みえ	○
	無所属	楠 晋典	○
庶民の会	自民党	林田 勉	○
	自民党	種村 繁徳	○
	無所属	本多 松弘	○
平成会	自民党	本多 秀樹	●
	自民党	濱崎 清志	●
	自民党	馬場 勝郎	●
新風会	自民党	永田 光臣	●
	自民党	上田 義定	●
	自民党	本田 順也	●
実践クラブ	自民党	北浦 守金	●
	自民党	馬渡 光春	●
	無所属	森園浩太郎	●
	自民党	生田 忠照	●
市民平和の会	無所属	草野 勝義	○
眉山クラブ	無所属	松井 大助	○
公明党	公明党	永尾 邦忠	○

第1回議会定例会賛否一覧

※意見が分かれた議案等を掲載しています。

議案名	会派	創生会					自民党真満の会		保守無所属の会		志政会	創造西海			無所属の会	会派所属なし				議決結果	賛成：反対
	議員名	淵瀬 栄子	杉山 誠治	浅田 直幸	佐藤 敏雄	平野 直幸	戸浦 善彦	朝長 隆洋	中里 悟	田崎 耕太	小嶋 俊樹	清水 正明	永田 良一	岩本 利雄	内野 繁樹	中尾 清敏	宮本 一昭	平井 満洋	田川 正毅		
請願第1号 核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書採択願		○	○	○	●	加わらない 議長は表決に	●	●	●	●	●	○	○	○	○	欠席	●	○	○	採択	9：7

○：賛成 ●：反対

※会派の所属状況は平成31年3月20日現在です



反対討論
●朝長隆洋 議員
NPT（核兵器不拡散条約）、CTBT（包括的核実験禁止条約）、FMCT（核兵器用核分裂物質生産禁止条約）の中で、核保有国と非保有国が参加する取組みを着実に実施しながら、現実的な安全保障上の脅威に適切に対処し、地道に核軍縮の前進を迫り及する日本政府の努力と取組みを一定理解し、現時点での意見書提出は適当ではなく、より深く議論すべきと考え反対する。

請願第1号 核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書採択願

討論の要旨

○田川正毅
西海市にも近くにいる被爆兵器廃絶の意成する。

○淵瀬栄子
条約は核保道を規定するへの枠組みを爆者や核実験責任も明記さ国民の切望にる。恒久平和、由と平和の町の議会として名批准を求めすべきである。

賛成討論
○清水正明
日本政府は兵器の廃絶を応え、唯一の絶と恒久平和き。条約の署名書を可決し、西海市議採択すべき。

長崎県には13市議会があります。そのうち、九つの議会は、賛否が別れた場合には、この「西海市議会だより」のように、各議員の賛否を掲載しています。

町議会も進んでいて、長与町議会だよりなど大いに参考になります。（当然、賛否一覧も載せています。）

長崎県議会は（県議会だよりを新聞広告にして、紙面が狭いので）ホームページで、「各議員の賛否」を明らかにしています。

各議員の賛否を掲載しない市議会は、長崎市・島原市・対馬市・松浦市の四市です。

電子採決の最新設備を持つのは西海市と

島原市の二市だけ。電子採決システムを持ちながら、各議員の賛否を公開しないのは日本広しと言えども島原ぐらいではないでしょうか。

20年9月の全協では、10対9の僅差だったので、「公開しないでもいい」という議員を「公開してもいい」に説得して、再度公開に持ち込もうとしましたが、肝心の庶民の会などが「改選後の議会に任せるということで、このままでよかろう。」と、非公開に転じたため不発に終わりました。

特集 長崎県の 三大悪政

県知事選 かく 闘えり



■2022/2/3 県知事選挙 47.83% (敬称略)

当	大石賢吾(39)	239,415
	中村法道(71)	238,874
	宮澤由彦(54)	46,794

■長崎県の三大悪政

長崎県には県民の半数が疑問を感じているのに、一部の利権のための公共事業が多すぎる。①諫早湾干拓②石木ダム③長崎新幹線、世に長崎県の三大悪政という。④カジノ誘致もいれて、四大悪政ともいう。

宮澤氏は三大悪政の中でも特に分かりやすい「石木ダム問題」を争点にした。

■自らの政策を捨てて現職に付いた立憲

自民党が、政策に違いのない中村現職と大石氏の二つに割れる千載一遇のチャンス。野党が結束して宮澤氏に付けば勝算はあったのに、現職に付いた国民・連合に引きずられて、立憲は自主投票にさえ持ち込めなかった。そして負けた。

■市民参加型選挙

松坂は石木ダム強制収用を許さない議員連盟の一員として、宮澤選対に入り闘った。ダム問題に詳しい環境派の嘉田由紀子参院議員(元滋賀県知事)ほか全国から学生ボ

ランティアも参加して、市民参加型選挙の可能性を模索した。共産党の自主応援もあって善戦したが、準備の遅れを埋められず及ばなかった。

■マスコミを味方に出来なかった

現体制の延命を望む勢力(長崎新聞ほかマスコミ)は、宮澤氏以外ならどちらでもいいわけで、世論を反映させれば三つ巴の戦いなのに、2者接戦と泡沫候補の構図に持ち込む偏向報道。

人の心理として、自分の票が死票になるくらいなら、残る二人からよりましなどちらかへと誘導される。

■問われる立憲長崎の姿勢

長崎県参議院選は全県区で一人を選ぶ知事選と同じ構図。3年前2019年参院選は古賀現職相手に大接戦を演じた野党候補白川あゆみ氏だが、県知事選での曖昧な態度が響き、2022年の参院選は惨敗に終わった。

■それにしてもなぜ現職は敗れたのか

自民が分裂したとはいえ、全市長の応援を取り付けながら何故中村現職は負けたのか。「長崎県の三大悪政」を放置したままだったからではないでしょうか。

諫早湾干拓

特集
長崎県の
三大悪政

長崎県の恥！島原の問題であり、ニッポンの問題だ。



■松坂政治の原点

はじめは、島原の漁業者の訴える漁業不振でした。調査を進めるうちに『諫早湾干拓』にたどり着きました。

市議会議員の仕事は、ご近所の市民の声を聴くことが起点かも知れませんが、市役所に掛け合っ、議会の問題に挙げるだけでは解決しない問題もあつたのでした。その代表例が『諫早湾干拓』です。

そこには政治の抱える問題点=公共事業の問題点が集約されています。

■最大の失敗は干潟を失つたこと

何度も繰り返していますから、ここでは概略にとどめますが、イサカンは「動き出したら止まらない無駄で有害な公共事業」の代名詞になっています。

- ◇ 過剰な需要予測（農地が足りない）
- ◇ 取って付けた別の理由（防災効果）
- ◇ 膨らみ続ける予算と環境破壊。

心ある学者や市民は、早くから警鐘を鳴らし、今も引き返すことを訴えています。

政治に関わる者たちは、土地や工事に伴う直接利権を隠して、追及されればすぐにばれてしまうような虚偽の目的（農地と防災）を押し通す。司法に従わない。すぐには見えない環境破壊には目をつぶる。

イサカンの場合、干潟の持つ浄化機能、有明海～東シナ海まで及ぶ魚介の子宮機能が、ギロチンで分断され、調整池の底に沈められました。

■今もほぼ毎日『汚水』放流

本明川奥深くまで遡上していた潮流も止まって、一方通行で垂れ流され続ける汚濁水（ヘドロ）で有明海は瀕死の状況です。一刻も早い干潟の再生が望まれます。

■普天間基地を干拓農地へ

（再掲）

沖縄の米軍普天間基地は、人口密集市街地の真ん中にある世界一危険な空港ということ。閉鎖移設すべきだが、辺野古移設も問題だらけ。

「誰かが引き受けなければならないのなら、うちで出来るかどうか検討してみようじゃないか。」と、考える普通の人はいないのか。

普天間飛行場の面積600haは、ほぼ諫早湾中央干拓地と同じ面積だ。条件は整っていて、行き詰まったイサカン問題の打開策として、検討は出来ないか。柔軟な発想が求められている。



川棚町石木ダム工事現場で座り込みに参加（草野勝義・松坂昌應・楠晋典・本田みえ）

■イサカンと全く同じ構図

- ◇ 過剰な需要予測（水不足）
- ◇ 取って付けた別の理由（治水）
- ◇ ふくらむ予算と自然環境破壊

これも話せば長くなります。松坂ブログ『新・土佐日記』で詳しくレポートしていますので、是非検索してみてください。

問題は、相手がムツゴロウではなく生身の人間であることです。

普通の公共事業は（必要性の理解が得られて）用地交渉は成立するものです。石木ダムについては、勉強すればするほど、無理があります。

■強制収用から行政代執行へ

「公共の福祉」の名のもとに、個人の土地家屋の名義は長崎県の名義に変えられて

しまいました（強制収容）。

パレスチナでもウクライナでもない日本でこのような暴挙が進行しています。

同じ県民同志、自治体間で助け合おう！
松坂は島原の湧水による代替案を展開



特集 長崎県の 三大悪政

そして 西九州 新幹線



この報告書（青草子）が、皆様のお手元に届く頃は相応の新幹線ブームに沸いていることでしょう。2022/9/23 開通。

■避けて通れない問題

一人ひとりにとって、新幹線開通は小さな変化でしかない。今まで博多に向かう際、在来線特急直通かもめだったけど、（乗り換えが面倒になった、高くなったということ、）高速バスで行こうか？自家用車で行こうか？とか、（速くなったから逆に）新幹線&リレー特急で行こう、とか。

しかし、全体を考えると大きな変化になる。観光も重大要素である島原市にとって避けて通れない問題、他人事ではない。

■フリーゲージ方式は何だったのか？

いつの間にか全線フル規格が当然のようになりつつあるが、そもそも全線フル規格では費用が掛かりすぎるということで、全線フル規格の選択肢はなかった。

フリーゲージ方式での在来線（武雄～新鳥栖）活用は、単に佐賀県の費用負担の問題だけでなく、在来線沿線を活かす意味があった。小さく生んで大きく膨らます常套手段。フリーゲージ方式は、最初から不可能を承知での当て馬だったのか。

■ありとあらゆる誘導

リレー方式（乗り換え方式）の不便は誰の目にも明らか。ここまでくると、だまされていた佐賀県民でさえ、諦めて「フル規格」容認に転じつつあるという。

長崎（諫早）から博多への在来線直通特急かもめは廃止され、鈍行を乗り継ぐしかない。直通を全て廃止して無理やり、新ルート（リレー方式＝乗り換え方式）に誘導する。

「今までは乗り換えなしで行けたのに」という不満を全線フル規格に誘導する。



松坂が好んだ「諫早～長崎」特急、480円（運賃）＋310円（特急自由席）のプチ贅沢は姿を消す。急ぐなら480円（運賃）＋870円（新幹線特急自由席）となり、そのほとんどがトンネルの中。

市民の声を議会へ まちカフェ



松坂は毎月第一土曜日午後 7 時～、を原則として、市政報告会『まちカフェ』を開催しています。お気軽にご参集ください。

(まちカフェの一コマより)

■人類は進歩しているのか

現代日本（世界）の政治の現状を見る時、何で、人間は、差別を助長し、身勝手に、環境を破壊し、戦争を押し進めて、今だに「核兵器の悪」をとがめられないのか、と、悲観的になってしまいます。

積み上げてきた知識や科学技術は、かつての人類が想像もできないくらいに膨大なのに、人々は幸福になっているのだろうか？普通に考えれば、いい方向に向かうはずではないのか？！

現代人は、知識情報量を過信して、自分たちは過去の人たちより優れているという傲慢ばかりで、思考停止していないか。との松坂の現状分析。

■人類は進歩している

会場から、「やはり人間は歴史を通じて進歩していると思う。」との発言。

考えてみたら、いまだに残る「差別」ではありますが、奴隷や植民地住民に人権などなく、戦争が正義であった時代からすれば、少なくとも、今は「戦争はダメ」が前提であり、「人種差別は許されない」「男女は同権」が出発点になっています。

女性が発言できなかつた時代ではありません。まだまだ差別は残っていますが、女性も発言できることから、スタートするのですから、やはり人類は進歩してきたのでしょうか。

せつかく獲得した自由（考えることが出来る環境）を不断の努力で守り続けなければ！と思うわけです。（巻頭言に決意！）

当然のこと（自分の考えを堂々と表明すること）が出来ない者たちが議員であるという現実。「王様は裸だ」と言えない。地球は動いているのに、周りが天が動いているというから、そう言わざるを得ないという悲しい現実。

会場から、「松坂さんは一人でも『地球は回っている』と言いつけてくれ！」と。

皆さんにいつも勇気をもらいます。

(まちカフェの一コマより)

■身近な問題：1センチの攻防



横断歩道と歩道の境界の処理。バリアフリー法では「段差は2センチメートルを標準とする」としながら、福祉のまちづくり条例では「段差をなくす」と、二重基準。

車椅子は、2センチの段差があると登れない。最新のイオン島原店前の段差は1センチで処理。さて正解はあるのか？

■市役所コンプライアンス

このたび市役所に不正会計が発覚した。人々の求めに応じることをコンプライアンスというが、単に「法令順守」と訳して、法さえ守ればよい。義務規定ではなく努力義務だから従わなくていい。とか、例外規定を強引に当てはめて解釈で逃げる傾向。

健康増進法が何故「官公庁は敷地内禁煙」としているか、その本来の目的に沿って考えれば、明らかに違法な喫煙所が市役所の屋上に設置されている。

強引な解釈を並べて作った喫煙所に住民理解は得られるのだろうか。なんと火気厳禁の場所に設置されている。この火気厳禁設備の管理事業者から「ダメ」という指摘は受けていないからいいのだ、と。このような順法意識では不正の根絶は期待できないだろう。

市民の常識を突きつけなければなりません。



市役所屋上 火気厳禁場所に喫煙所

読書案内コーナー：『人新世の「資本論」』斎藤幸平著



恐るべき本だ。実に分かりやすく、資本主義の仕組み（行き着く先は世界の終わり、人類の住めない地球）が説明されている。

マルクスは既にそのことに到達し解決を模索していたのだが、まだ20世紀にはその真意が理解されなかった。

地球温暖化は明らかにヒトの仕業である「人新世」の時代。

資本主義の行き着く先に未来はないことが明白になった今、我々はどうのような生き方をすればいいのか。

松坂まさおプロフィール

1954（昭和29）年4月28日生まれ
島原市弁天町生まれ上の町育ち
島一小・島一中・島原高校・
慶應義塾大学文学部（国文学）卒
茗溪学園中学高校（つくば市）国語教諭
帰郷後、家業わかば写真館経営
噴火災害を機に『まちづくり』活動
2003年～島原市議会議員
森岳商店街会長・がんばらスタンプ理事
島原中心市街地街づくり推進協議会事務局長

特技・趣味・関心事

写真・読書・絵本
まちづくり
鉄道（地域公共交通）

好きな色：青
尊敬する人：マザーテレサ
四人家族（妻、娘二人）

情報発信中！
ホームページも
ぜひ覗いてください



貧困は神の産物ではなく人の所業です。
私たちが分かち合わないからです。
マザーテレサ



松坂まさお HP

まつさかまさお
発行責任者：松坂昌應
（島原市議会議員：バラの会）
〒855-0045 島原市上の町 927-14
メール：news@masao-m.com
携 帯：090-2587-4622
※お気軽にお電話ください。